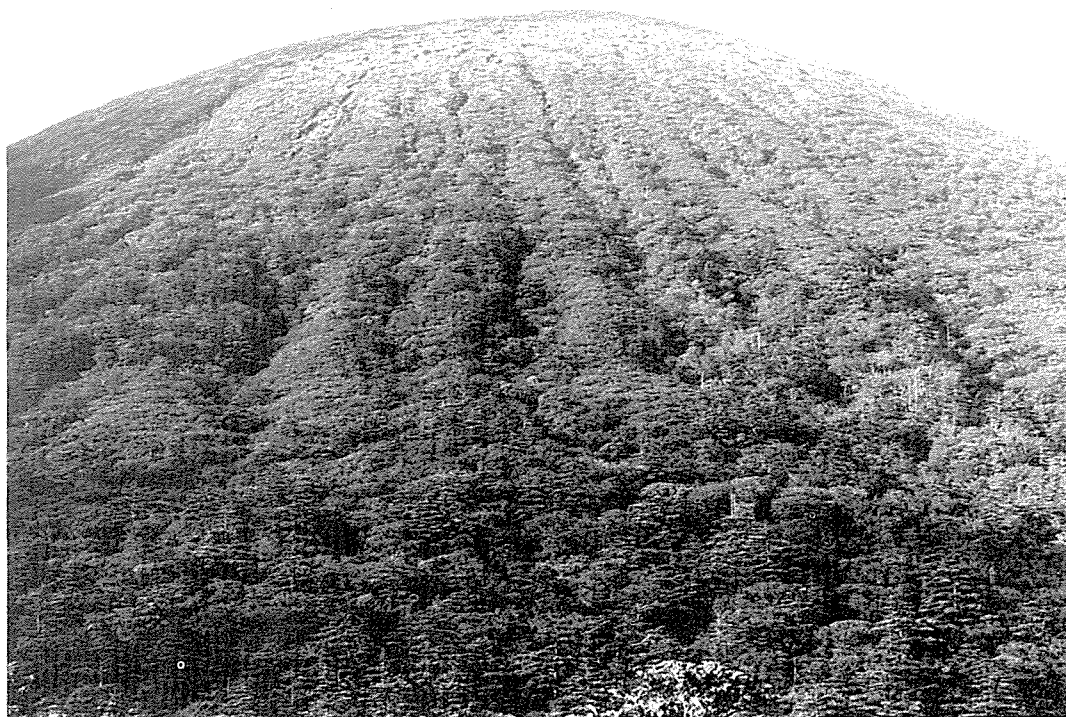
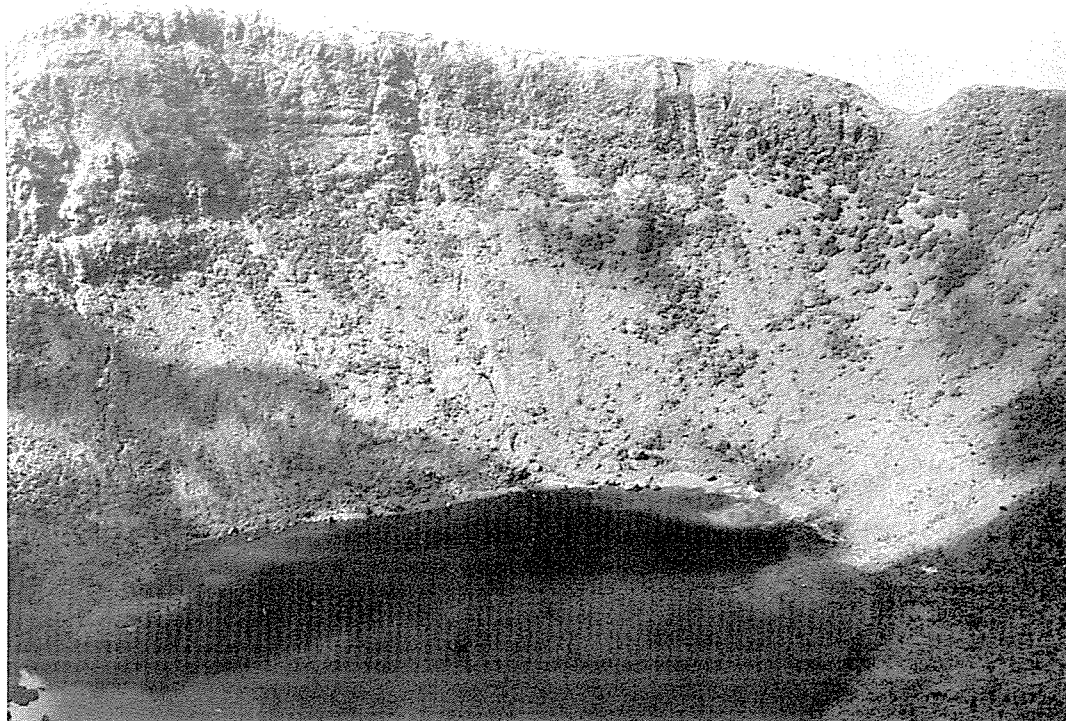


I. 薩摩半島北部景観



Phot. 1 霧島山地韓国岳。 霧島山地にはまだ自然が残されている。



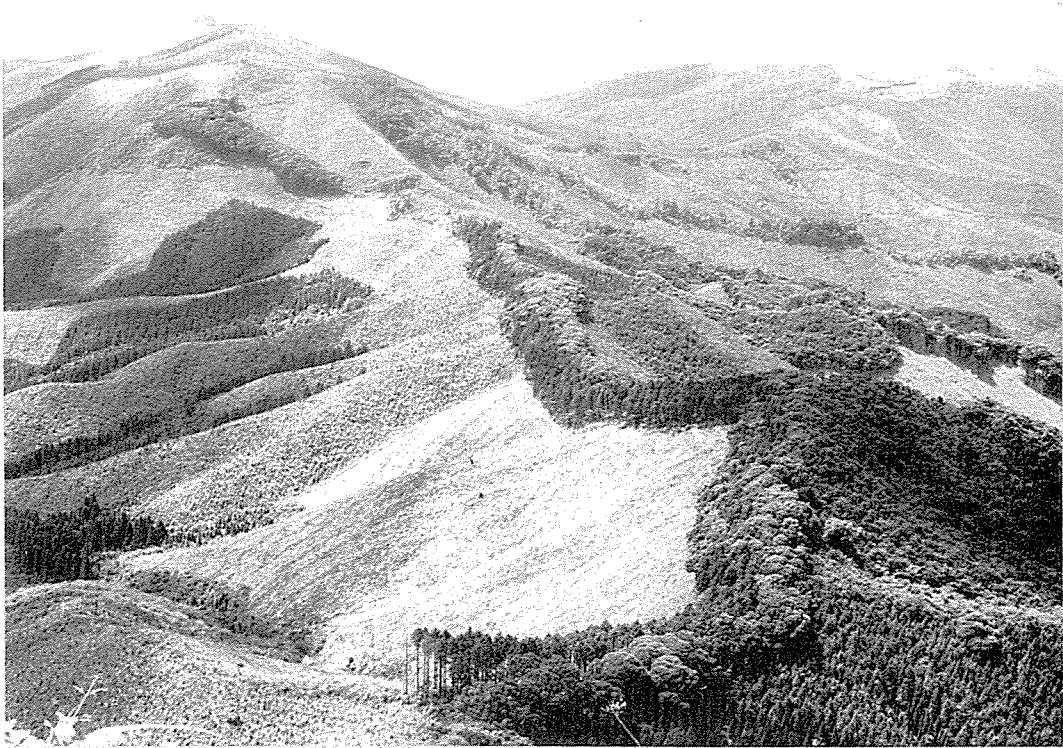
Phot. 2
韓国岳山頂の火口湖。 火口壁の急傾斜地にミヤマキリシマ、ノリウツギの群落やススキ、キリシマノガリヤスの草原がみられる。



Phot. 3 韓国岳山腹。ミズナラ群落よりシラキーブナ群集ハリモミ亜群集に移りかわる。ハリモミが突出している。



Phot. 4 栗野岳に残されているイスノキウラジロガシ群集。



Phot. 5

矢筈岳西部の景観。鹿児島県・熊本県境界部の尾根上に帯状に残されているイスノキウラジロガシ群集、両側とも伐採されスギ・ヒノキ植林におきかえられている。



Phot. 6 大口市山野・集落の裏に広大な面積で残されているモウソウチク林。



Phot. 7 台地上に植栽・栽培されたチャ畑。



Phot. 8 長島町。自然林全て伐採されクマツ植林や二次林にかわっている。



Phot. 9 沖積低地は広大な面積で水田耕作が行なわれている（長島町）。



Phot. 10 砂地の畑を利用してサツマイモ畑がつけられている（長島町）。



Phot. 11

集落の裏山はスギ植林，モウソウチク林に利用され，集落から離れた地域は段々畑や水田に大規模に開発されている（長島町）。



Phot. 12

段々畑を利用したミカン畑（長島町）。



Phot. 13 上甌島里村の景観。境界にホウライイチクの利用が多い。



Phot. 14 下甌村片野浦。海岸岩壁はサツマノギクススキ群落(写真灰色斜面), オニヤブソテツ-ハマビワ群落(写真濃灰色)がマツキー状の群落を形成している。



Phot. 15 海岸の湾を利用した瀬々野浦の集落。



Phot. 16 急傾斜地を利用して、周辺にスタジイ林やタブ林を残し生活している下甕村内川内の集落。



Phot. 17

下甑村最高峰の尾岳。30～50年毎の伐採で萌芽林を形成している。中央部は新しくつくられている林道。



Phot. 18

下甑島東斜面は強い風衝でトベラーウバメガン群集やマテバシイ群落が発達している。

Ⅱ. 植物群落

1. ヤブツバキクラス域の自然植生



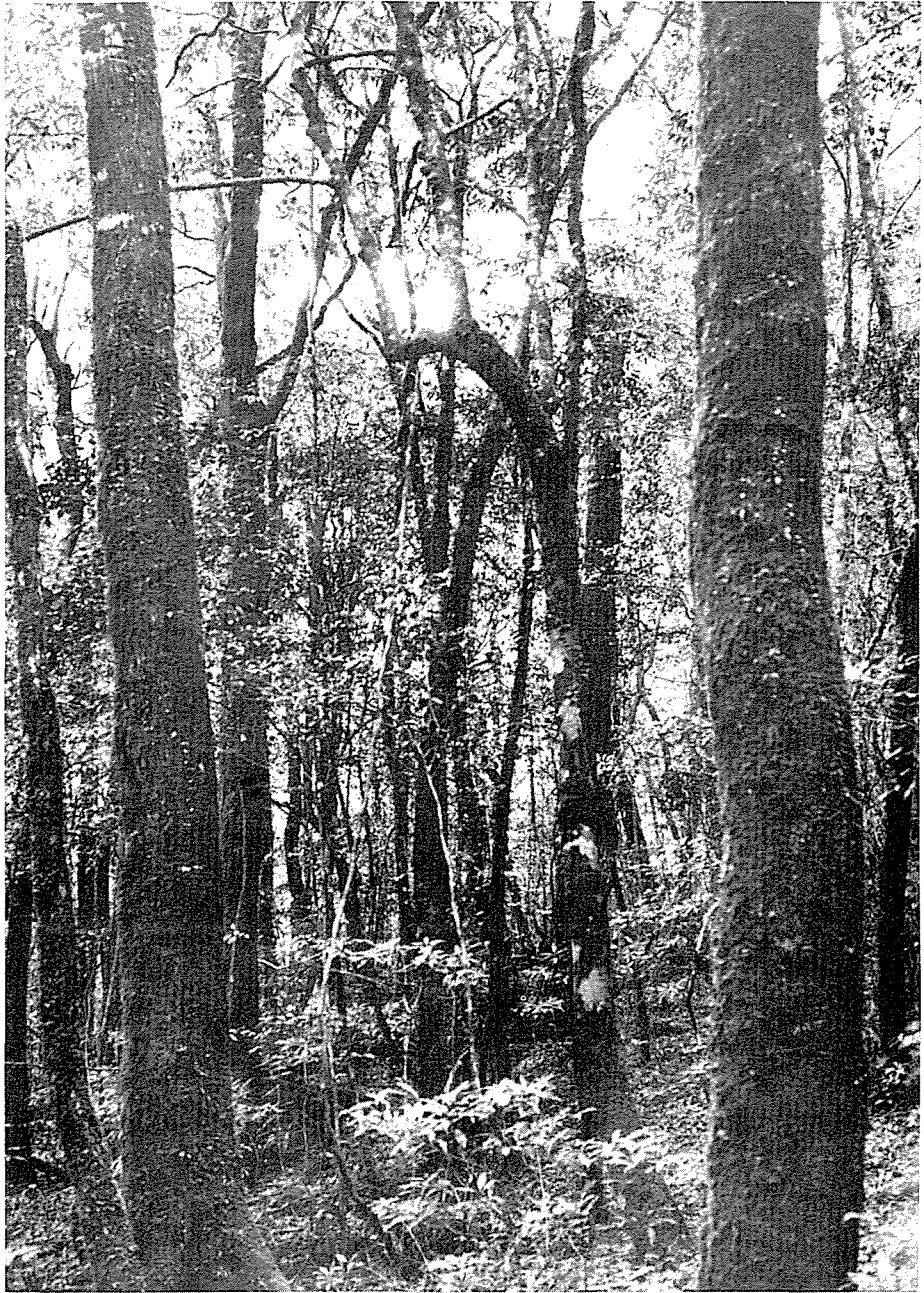
Phot. 19 鶴田ダム周辺に残されているイチイガシ群落。
ハナガカシが混生している（鶴田町）。



Phot. 20 宮崎県・鹿児島県県境に残されている栗野岳国有林、宮崎県側は全て伐採され鹿児島県側のみ残されている。



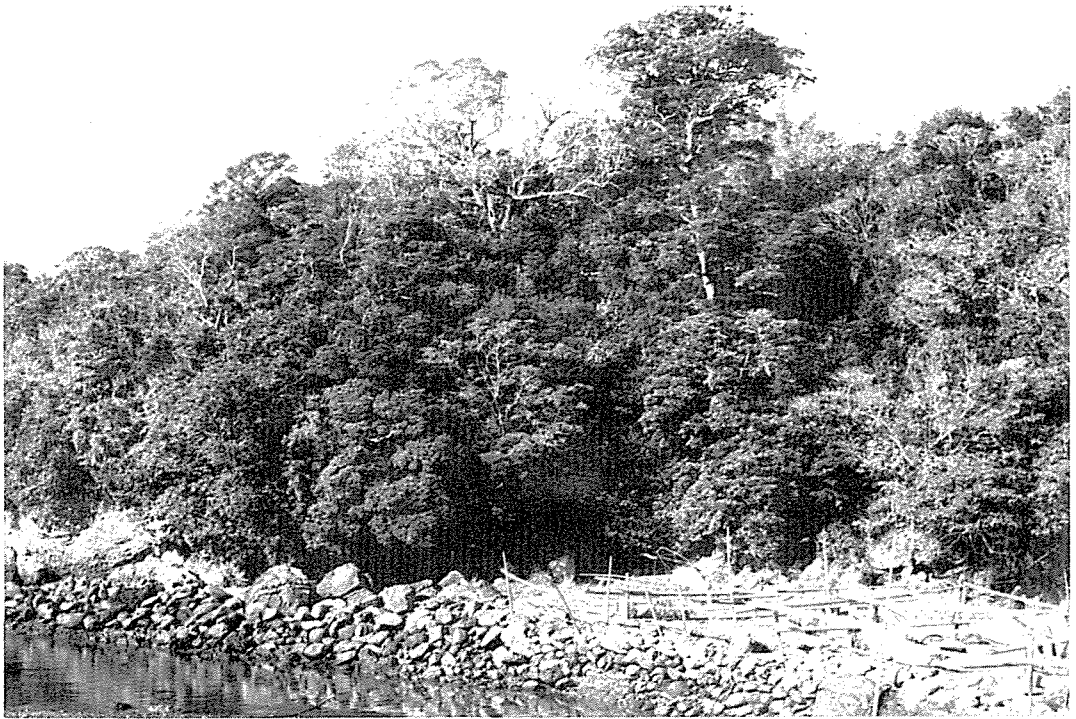
Phot. 21 イスノキーウラジロガン群集林内相観。



Phot. 22 イスノキウラジロガン群集の樹皮には着生植物がきわめて多い。



Phot. 23 シキミーモミ 群集の外観 (韓国岳)。



Phot. 24 ムサシアブミータブ群集。海岸風衝地ではアコウが混生する（阿久根市佐潟）。



Phot. 25 ジャヤナギ群落の相観（東郷町）。



Phot. 26 オギ群集の群落相観(東郷町三ヶ郷)。



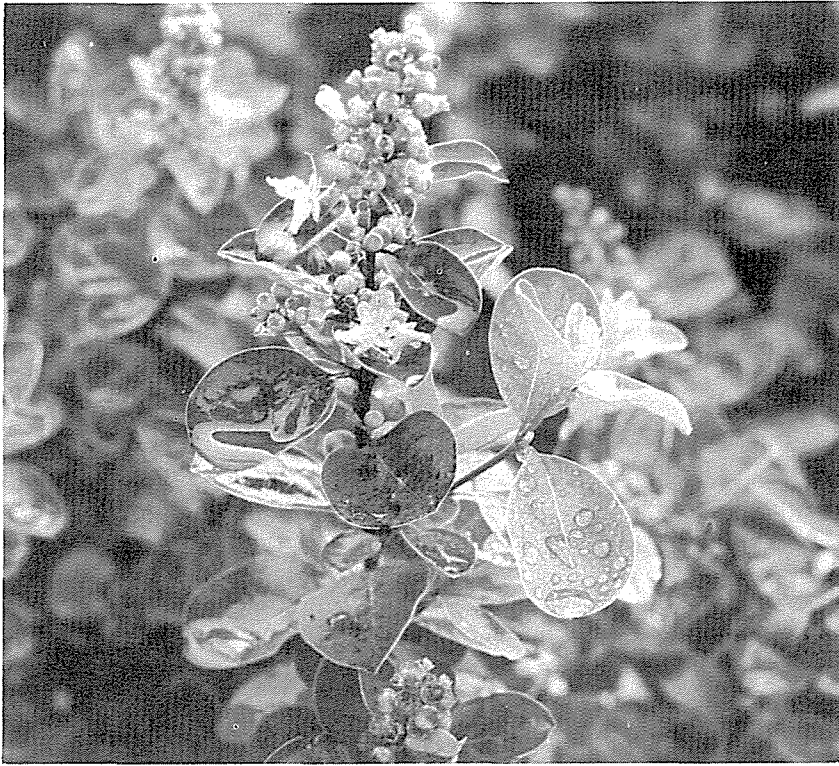
Phot. 27 ヨシ群落の相観(上甌島荒入崎)。



Phot. 28 河辺の流水辺に発達するツルヨシ群集。



Phot. 29 チガヤハマゴウ群集(出水市福江港)。



Phot. 30 ハマゴウの花。



Phot. 31 出水市荒崎のフクド群集。



Phot. 32 フ ク フ。



Phot. 33 阿久根市折口のナガミノオニシバ群集。

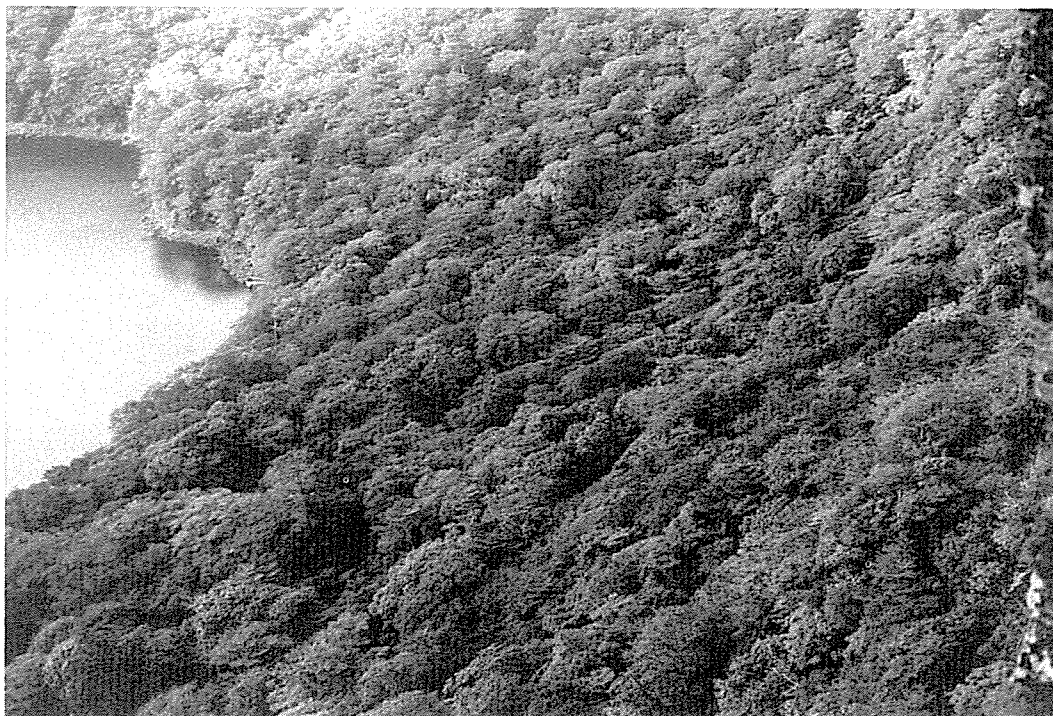


Phot. 34 安定した小砂礫上に生育するピロードテンツキーハタガヤ群落（舟間島）。

II ブナクラス域の自然植生



Phot. 35 霧島山地韓国岳のシラキープナ群集。



Phot. 36 ミズナラが高木層に優占しているシラキープナ群集(大浪地周辺)。



Phot. 37 大浪池カルデラ壁に発達するヒカゲツツジーコックパネウツギ群落。



Phot. 38 ペニドウダン-ミズナラ群落(韓国岳1,660m付近)。



Phot. 39 韓国岳山頂付近のマイヅルソウ-ミヤマキリシマ群集。



Phot. 40 九州特有のミヤマキリシマ。

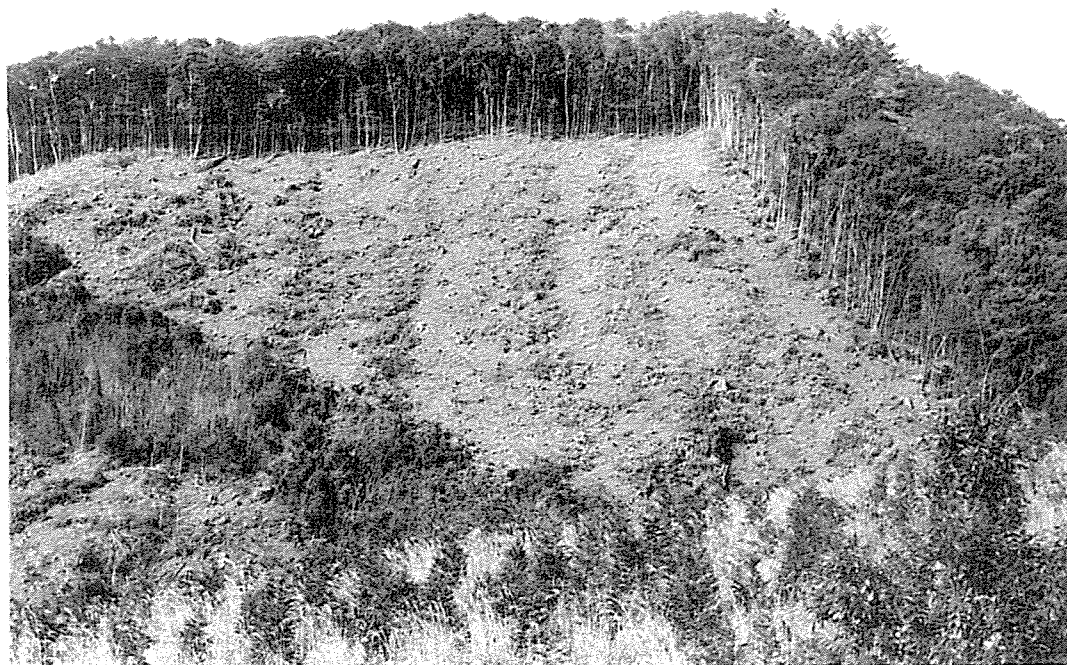


Phot. 41 マイヅルソウ-ミヤマキリシマ群集典型叢群集(高千穂峰)。



Phot. 42 マイヅルソウーミヤマキリシマ群集キリシマヒゴタイ亜群集キリシマコザサ変群集
(韓国岳)。

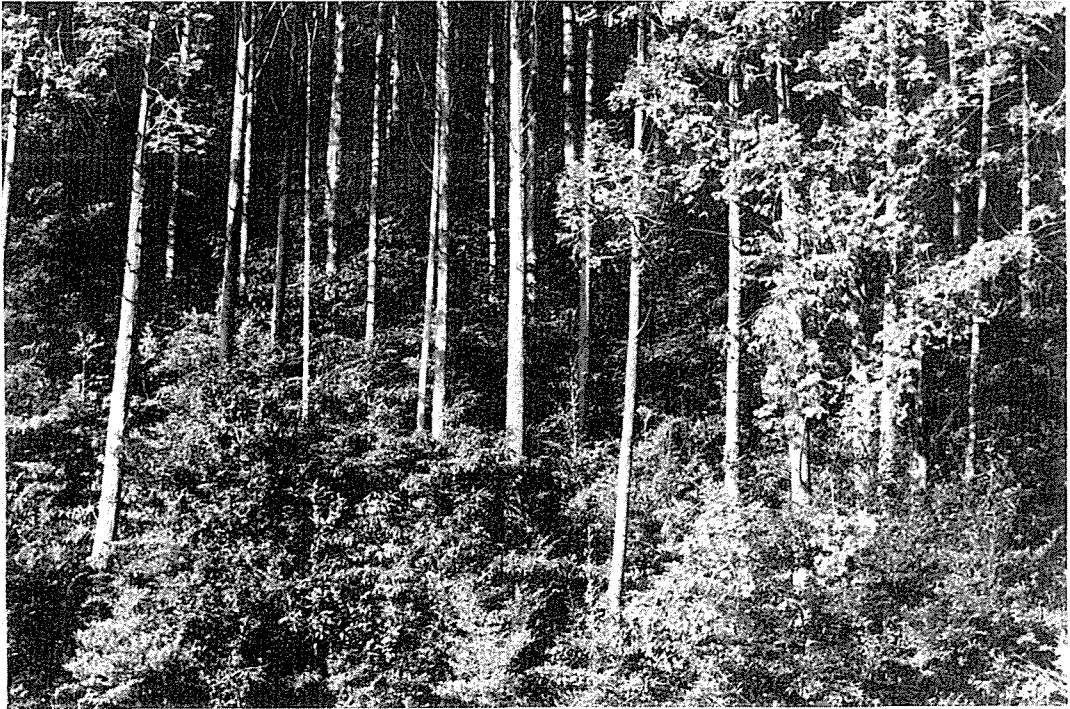
Ⅲ. 代償植生



Phot. 43 頻繁な伐採により萌芽林が形成されている大口市国見山地。イスノキ・ウラジロガシ群集萌芽林。



Phot. 44 尾根部に自然林を残し、斜面はスギ・ヒノキ植林に利用されている（大口市田代）。



Phot. 45 スギ植林。生育のよいスギ植林内には潜在自然植生の指標植物が混生している（大口市）。

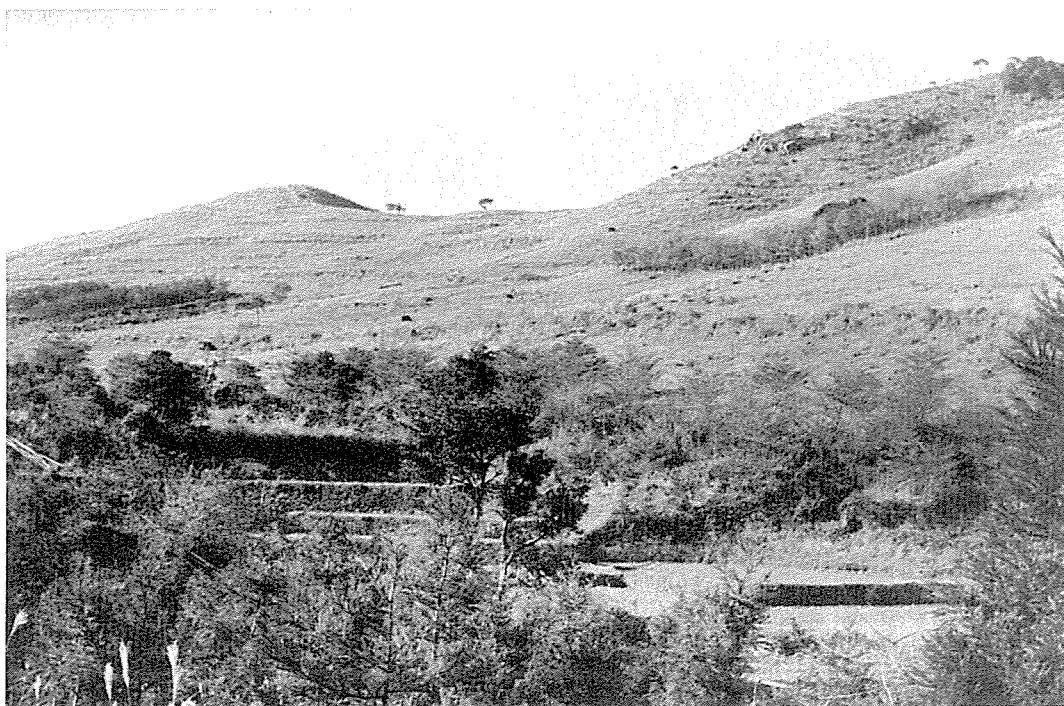


Phot. 46 海岸ぞいや河辺に帯状あるいは稿状にみられるダンチク群落（長島町）。



Phot. 47

森林伐採後一面にリュウキユウチク群落でおおわれ、風衝が強いため持続群落を形成している
(下飯村 浜田)。



Phot. 48

放牧地に利用されているススキ群落(長島町)。



Phot. 49 伐跡に広がるススキ群落（霧島町）。



Phot. 50 石垣上の植物群落 イタチガヤーホラシノブ群落（長島町）。



Phot. 51 イタチガヤーホランソブ群落コモチンダ下位単位群落(長島町)。



Phot. 52 海岸沿いのマント群落の一型、ツルソバ群落(長島町)。



Phot. 53 伐採直後の伐跡群落 (矢筈岳下)。



Phot. 54 伐採後1年目にはダンドボロギクーベニバナボロギク群集が生育する。



Phot. 55 長島町のソラマメ畑。畑地雑草はコミカンソウ・ウリクサ群集。



Phot. 56 水田耕作放棄のチゴザサ群落（野田村）。

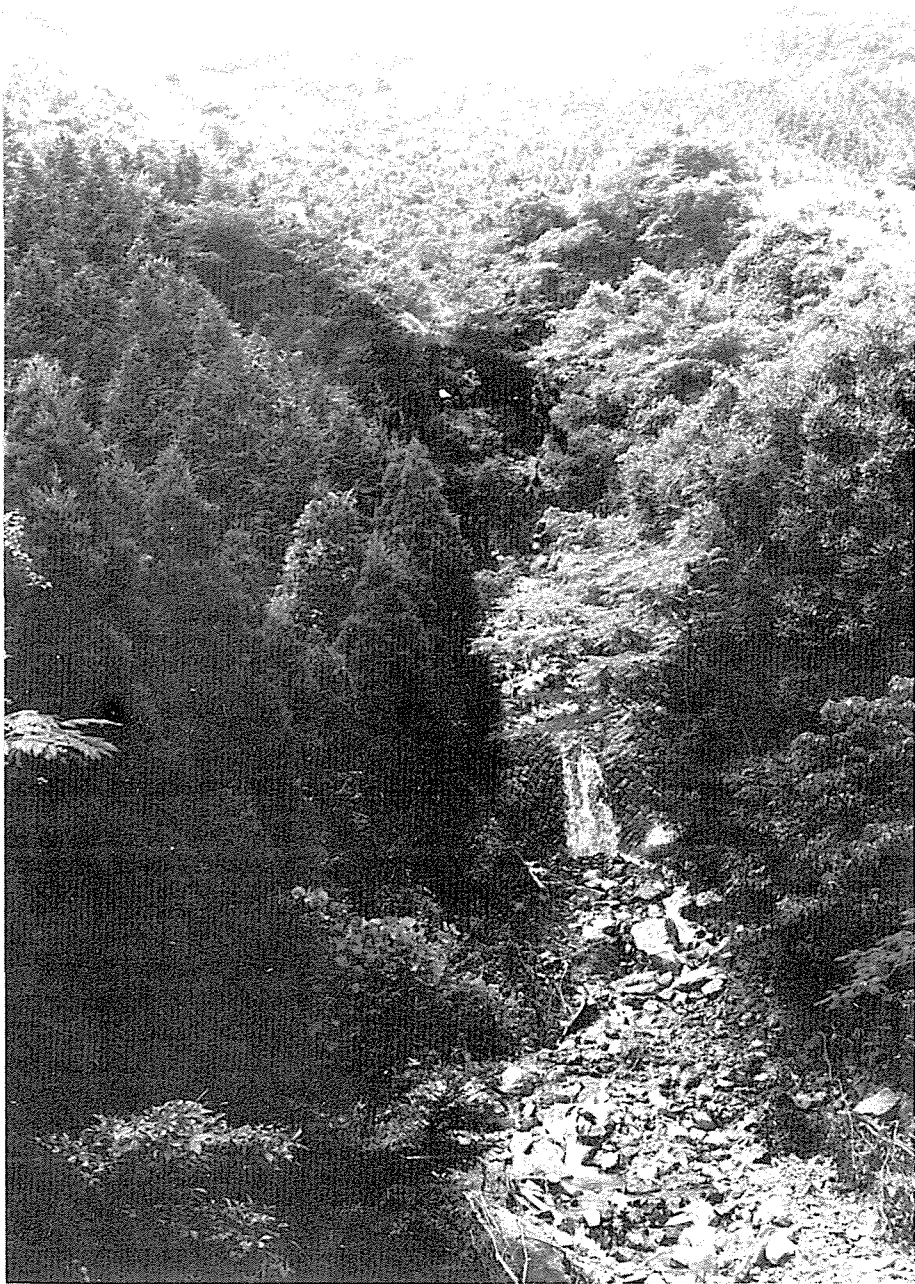


Phot. 57 斜面を階段状に耕作された水田（下甌村）。

Ⅲ． 薩摩半島北部の環境保全と創造



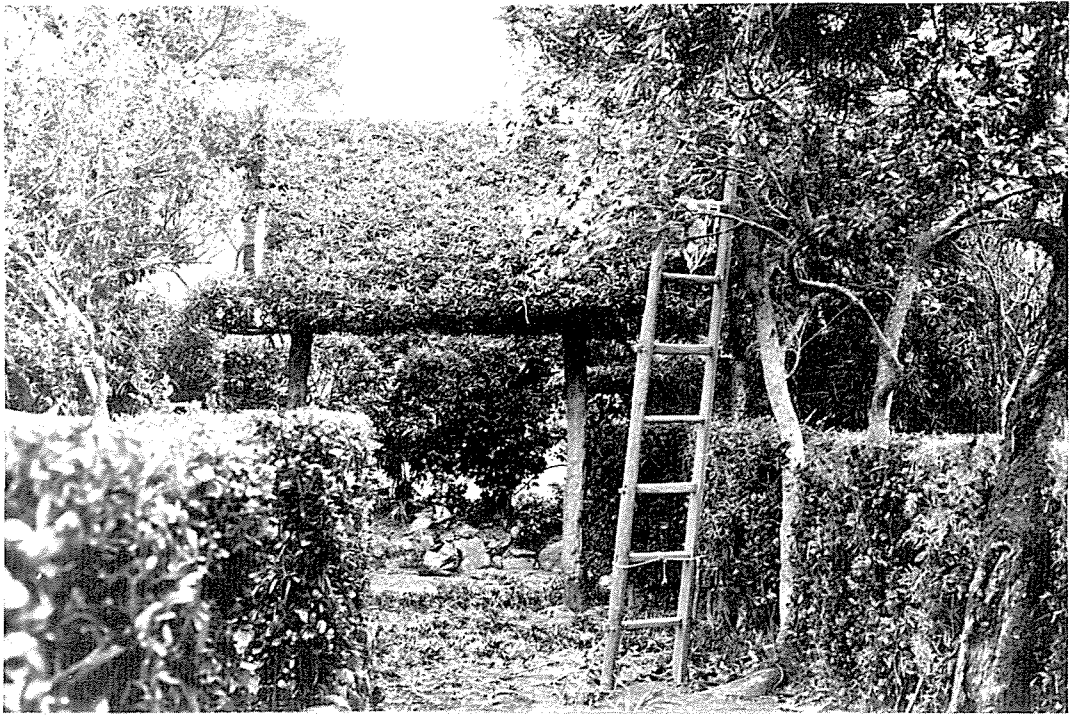
Phot. 58 山地帯は次々に伐採が行なわれ画一的な植林が進められている（大口市稜刈町）。



Phot. 59 集中豪雨時に真先に被害をうける伐採あとの下部地域（宮之城町）。



Phot. 60 集中豪雨で崩壊した土砂は谷を埋め水田や、時に集落をも襲う。



Phot. 61 自然植生構成種のイヌマキを利用した生垣（下甕村手打）。



Phot. 62 リュウキユウチクを利用した防風用生垣（下甌村浜田）。



Phot. 63

どこを利用し、どこに自然を残し子孫代々受けわたり安定した生活を継続してゆくかは、自然と共存しながら生活してゆく我々の永遠の問題である。

尾根部に残されたミズバイースダジイ群集、谷部にスギの植林、低地は水田に利用して生活している下甕村浜田の集落。